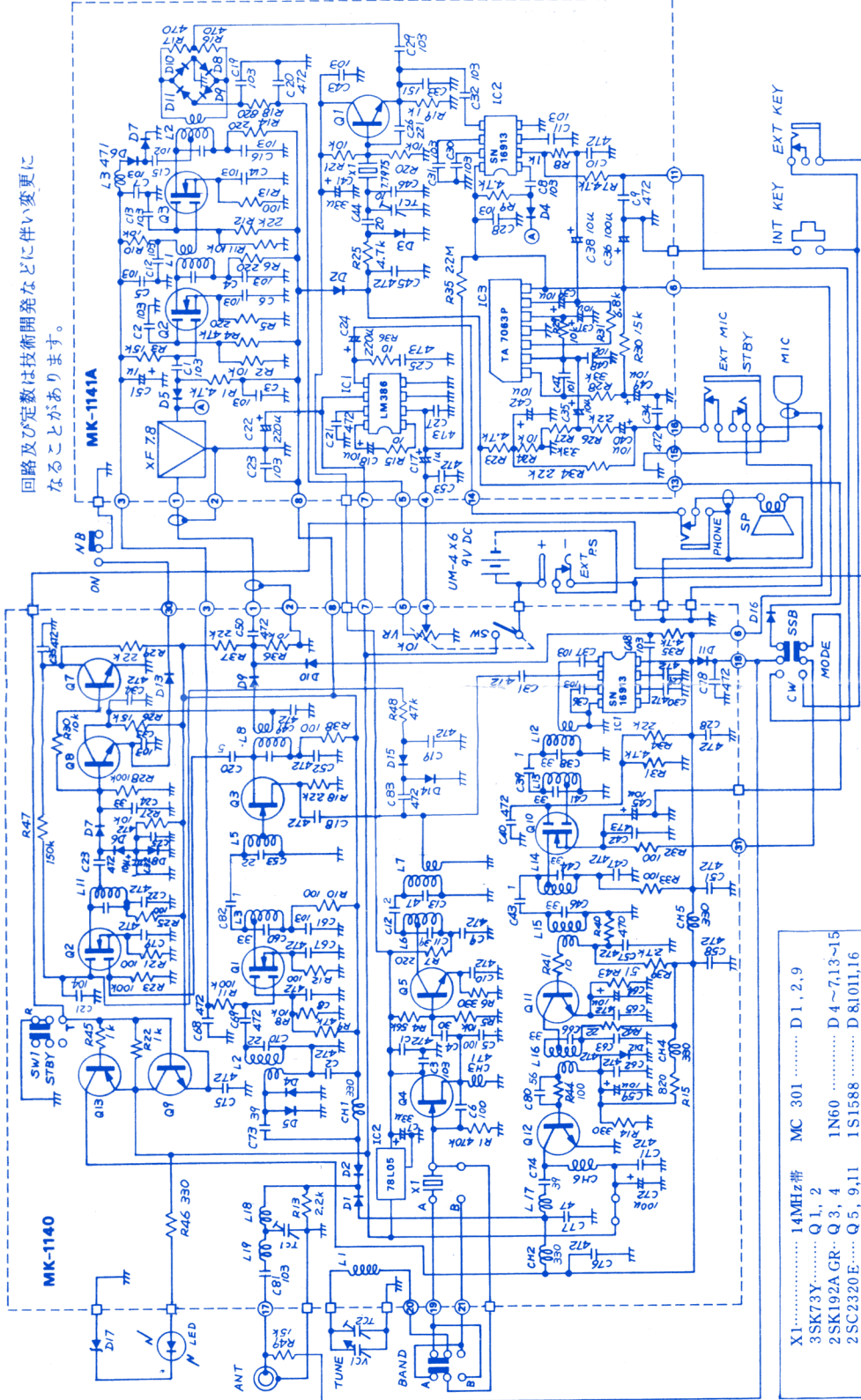


# MX-6Z 回路図

回路及び定数は技術開発などに伴い変更になることがあります。



X1.....	14MHz帯	MC 301	.....	D 1, 2, 9
3SK73Y.....	Q 1, 2	IN60	.....	D 4~7, 13~15
2SK192A GR.....	Q 3, 4	1S1588	.....	D 8, 10, 11, 16
2SC2320E.....	Q 5, 9, 11	1S1555	.....	D 12
2SC2320F.....	Q 7, 8	05Z5.1	.....	D 17
3SK59GR.....	Q 10			
2SC2053.....	Q 12	MK-1140		P, C, B
2SA719Q.....	Q 13			

2SC2320E.....	Q 1	MC 301	.....	D 3
3SK59GR.....	Q 2, 3	IN60	.....	D 6~11
1S1588.....	D 2, 4, 5	MK-1141A		P, C, B

## 1. 開局申請について

MX-6Zで開局申請をする場合、機器に関する項目については、下記のように記載して下さい。

電波の型式、周波数、空中線電力

(A3J ※, 50MHz帯, 0.25W)

発射可能な電波の型式 (A3J ※)

周波数の範囲 (50MHz帯)

変調の方式 (平衡変調)

終段管の名称、個数 (2SC2053 × 1)

電圧入力 (8.5V 0.6W)

◎ 電信モードも申請する時は、※印にA<sub>1</sub>を追加して下さい。

## JARL登録機種 登録番号 MK-7

## 2. ピコ6Zの改造 Q&A

◎ 電源表示LEDをスタンバイSWを押すと点燈するようにしたい。(送信時のみ点燈させたい。)

▲ LEDの黄線をプリント基板側ではなくして、330Ωの抵抗を通して送信時+9Vラインにつなげば、OKです。図-1を参照下さい。

◎ CWモードでサイドトーン回路を付けたい。

▲ 図-2を参考に配線します。半固定VR10KΩは、モニター音量調整です。ダイオードは全て1S1588を使っています。スピーカ側基板(ジェネレータ部)のIC LM-386の2ピンと送信時+9Vライン間に入っている、1~2.2MΩ(R35)の抵抗は必ずはずして下さい。送信中にモニター音が出ますから、その分だけ電池の消耗が早くなります。(10~20mA)

◎ Sメーターを付けたいのですが。

▲ シグナルレポートは、説明書の最終項目のような内容で送るのが一番ですが、Sメーターは図-3の方法で付けることは出来ますので実験されてみて下さい。

図-1

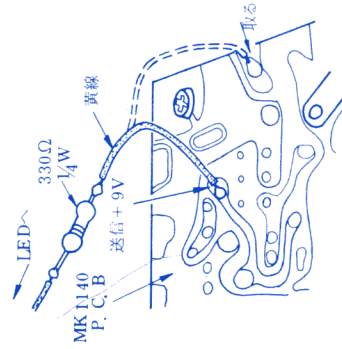


図-2

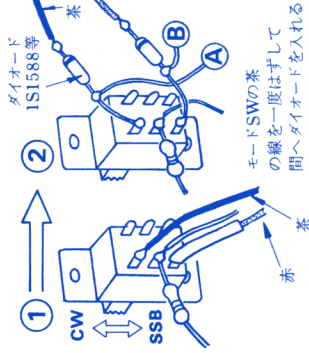


図-3

